

ユーラシアンホットライン

8月のイベント終了 創作曲「2011年3月11日 絆」完成し披露 地下洞窟でつながる中央アジア、被災者支援にアジアの絆をアピール

大野 遼

8月12日、盆の入りと金曜日という最悪の日程ながら、愛川町では二回目となる「アジア・シルクロード音楽フェスティバル 中津川弁才天第2回愛川町音楽祭」が終わった。聴衆の数は300人。500席を満席にすることはできなかったが、さまざまな条件を勘案すれば、まあよし、という数字であるが、内容的には昨年にも増して最高の仕上がりがだった。コンサート終了後の募金の呼びかけにミュージシャンも募金箱を持って参加、多くの方から10万円余の募金が寄せられた。

今年は3月11日に、未曾有の地震と津波そして原発事故という人類史的価値観の転換を迫る被災を目の当たりにし、年来のアジアの音楽家の友人から、チャリティコンサートへの協力を得られることとなり、私は、これまで以上に「アジアの心」「アジアの絆」をキーワードとした音楽コンサートにしなければならぬと考えた。とはいえ、コンサートに協力してくれる日本とアジアのミュージシャンの顔ぶれが見えた時点で、ほぼその仕上がりについては想像できた。岳人山の創作曲についても大いに期待した。演奏能力だけでなく、被災地に寄せるやさしさにあふれたミュージシャンの心が曲に魂を入れると信じていたからだ。

こうして6ヶ月間ほとんど何も動いていないに等しい崩壊した政治の中、被災から復興、生活の再建に歩もうとする人に、ささやかだが、アジアの心を、時空を超えた絆を感じてもらえる曲が完成した。「2011年3月11日 絆」。フェスティバル当日二部の最後に紹介した創作曲「絆」は、厳粛な、人事を超えた自然災害とこれを受け止め、暮らしの再建と復興に歩み始めた被災者へ寄り添い、一緒にがんばろうという完成度の高いメッセージとなっている。フェスティバル会場では、涙をぬぐい、一緒に拍手する聴衆との合奏も生まれた。尺八、篠笛、パンスリといった笛の音色に、馬頭琴、カシュガルラワップ、ギターやタブラが、時に重厚な、時に軽やかでひろがりのある、希望を誘う音楽的表現に



成功した。被災地でさまざまな形で演奏できることを希望している。

私はこれまで、アジアにおける弦楽器、特に三味線を最後の姿とするアジアの音楽史を辿りながら音楽によるアジアの諸民族理解を求めてきたが、昨年と今年、私が住む神奈川県愛川町での二回のアジア・シルクロード音楽フェスティバルを通して、日本やアジアの音楽風土にとって太鼓や笛が大変重要な楽器であり、この二つを基盤に創造的で完成度の高い音楽世界を追求することが、まったく新しい、世界に通用するアジア発の音楽表現につながるの確信を持った。

昨年11月から12月にかけて、加藤九祚先生の仏教遺跡発掘二十年と米寿の挑戦を称えるウズベキスタンで開催した音楽コンサートを通して、日本とアジア最高峰の笛の演奏者、ネパールのパンチャラマ、篠笛の木村俊介、尺八の岳人山そしてタブラのサラバンラマの4人は、既にその可能性を存分に示していた。今回、8月12日、愛川町文化会館で開催した「東日本巨大地震被災者支援チャリティコンサート アジア・シルクロード音楽フェスティバル」の一部で紹介した「アイルタム幻想」(作曲パンチャラマ)、二部の最後の創作曲「2011年3月11日 絆」(作曲岳人山)は、聴衆にしっかりと

と受け止められた。アジアの一流の音楽家による音楽表現でアジア理解を図ろうと追求してきて15年。これまでになかった音楽世界をみる事ができた。

そして今、来年に向けて、芭蕉が切り開いた究極の言語表現と、この笛と太鼓を中心としたアジアの楽器による音楽表現を融合するという私の年来の希望は一層強くなってきた。よく語られる「伝統の創造」というのはこの方向性にあるように思う。

当面は、「絆」を携えて、被災者を訪ねるキャラバン企画を具体化し、継続的に実施できる体制をつくりたいと考えている。これまで以上に皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

被災地の文化会館職員と連携した慰問音楽キャラバン「アジアの心」プロジェクトに向けて

大野 遼

今後チャリティコンサートの収益で慰問音楽キャラバンを実施の計画ですが、炊き出しも含め相当の額が見込まれ、皆様のご寄付等物心両面のご支援が欠かせません。ご寄付、食材その他ご協力いただける方は、下記の住所にお送りいただくか、下記のNPO ユーラシアンクラブ・愛川サライの口座にお振込みいただくようお願いいたします。またスタッフとして現地に同行を希望される方もぜひご連絡ください。活動の成功のため皆様のご理解ご支援を心より切望します。

(寄付金の振込先、私の連絡先)

住所：〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314 - 1 NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ
口座：相愛信用組合中津支店 普通 0128190 NPO ユーラシアンクラブ 愛川サライ
連絡先：046 - 285 - 4895 (TEL/FAX) paf02266@nifty.ne.jp 090-3814-5322(大野遼)

< 愛川町でウイグル文化を発信 >

勤労祭にウイグル人が参加

愛川町は、町の名称のもとになった中津川の地下洞窟伝説でウイグルとつながっている

私が、愛川町で活動を始めて 6 年。昨年に続き、8 月 28 日（日）愛川町・内陸工業団地で開催された勤労祭に参加、アプレット ハビブーラ（タンブル）さん、イーダヤット ザイドン（ドタル）さん、アリカム アキラム（ダフ）さんら演奏者、舞踊のグリザル ヌスラデさん、レマティラ タンヌルさんが中央イベント広場でウイグル音楽と



舞踊を紹介し、ウイグルの人と文化を参加者にアピールしました。また国際交流屋台村のテントの脇で、ウイグル伝統音楽

12 ムカムの一端を紹介し、陽気で華やかな民族性を存分に発揮、注目を浴びました。

屋台村のテントでは、ウイグルの友人 3 人が前日からほぼ徹夜で仕込んだカバブを販売、カバブの売り上げも上々でした。売上金で 10 人余りのウイグル人の交通費が支払われました。

私は、この勤労祭の時期に合わせてウイグル人が毎年愛川町を訪れて、協力してウイグル料理などを調理、販売しながら、自立的に交流できるようになることを望んでいます。

ウイグル人は、古来中国では西域と呼ばれた天山山脈の東から南にかけて広がるタクラマカン砂漠縁辺のオアシス都市で、諸民族が交流するシルクロードの歴史を継承する民族。アジアの東西交流の要に位置し、今のユーラシアの民族文化の骨格形成に大きな役割を果たした民族。トルコ系の民族でありながら、ペルシャやアラブの社会、文化要素を取り入れた華やかな音楽文化で知られている。特に愛川町にとっては、中心を流れる中津川の地下にある、弁才天が歩いたという洞窟の伝説が、インドの弁才天および同じ呼称と考えられているイランやアフガニスタンで形成されたゾロアスター教のアナーヒターが表象するカレズ（ペルシャ語、アラビア語でカナート）に相当することから、その意味で私は「（愛川町の）中津川の地下洞窟はウイグル（トルファン盆地のカレズ）につながっている」と発言しています。

仏教の伝来とともに内陸アジアの井戸神伝説が日本に伝わり、日本各地に残されていますが、これは奈良時代に全国に設置された国分寺の七重塔に収められた金光明最勝王経の普及という歴史と関連があります。

今後もウイグル人と愛川町民の交流を進展させて、シルクロードや西域へのロマンといったことだけでなく、時空を超えた歴史文化を背景にした交流の時代に変えたいと希望しています。



10 月 16 日、千葉県君津市で「アジア SUMO フェスタ」

10 月 16 日、千葉県君津市のカムイミンタラ（東京アイヌ協会名誉会長浦川治造さんが立ち上げた世界の先住民族を中心にした諸民族の交流拠点）で、アジアの相撲的競技を通じた交流フェスティバル「アジア SUMO フェスタ」が開催される。君津市国際交流協会、かずさ国際文化交流協会、NPO ユーラシアンクラブが後援しています。

「フェスタ」で諸民族の相撲的競技を紹介してもらうため、タジキスタン大使館のスプホン・クルボノフ等書記官を訪問して協力を要請しました。スプホン一等書記官は、在日タジキスタン留学生に参加を働きかけることを約束しました。在日アフガニスタン共和国、ウズベキスタン共和国、キルギス共和国大使館も訪問し、協力を要請。イランイスラム共和国も近く訪問する予定です。



【アルタイ通信 No 2】 日本語教室から生まれた文化企画「Altai-Japanese night」を実施

菅野 陽
埼玉県出身
文化服装学院夜間部卒業
KANNOTEXILE 代表



10代の頃より海外の織物、生地、刺繍に興味を持ちアジアを中心に長期の旅行を重ねる。アパレル企業に勤務の後、世界の手工芸を巡る世界一周の旅に出かけその際ウズベキスタンで日本語学校運営者ガニシエル・N 氏と知り合い、2010年11月より半年滞在。日本語、縫製を現地の子どもに教える。その後、2011年6月からガニシエル氏の紹介により、ロシア連邦内アルタイ共和国、首都ゴルノアルタイスクに移動。現在、現地でデザイナーとして働き、また日本語学校を運営。

6月に日本語教室を開設して3ヶ月。「Altai-Japanese night」を実施しました。企画から実施までわずか1ヶ月。モスクワから夏休みで帰省中の女性アクサナさんという文化振興を研究する人がたまたま日本語教室の生徒の一人にいて意気投合。国立劇場の監督俳優などによる演劇「父帰る」(菊池寛・ロシア語版)やグラフィックデザイナーと協力したTシャツ製作、日本食レストランの協力による寿司とアルタイの伝統料理の試食会、合気道のデモンストレーション、アルタイの伝統音楽と日本の歌の紹介、折り紙教室、映画雨月物語の上映などと盛りだくさん。急遽中止したり、実現しなかった企画、トラブル続出、と大変だったが、話をもちかけた60人を超えるアルタイ人が「日本への興味」の一点で、ボランティアを引き受けてくれ、会場となった首都ゴルノアルタイスクのカフェ「レータ(夏の意味)」には100人ほどの人が訪れ、文化大臣やテレビ局も姿を見せた。



ト。ゴルノアルタイスクの幅広い文化機関、人脈のネットワークを生かして働きかけてくれたおかげでこのイベントを実現することができた。

私は、現地の若者や大人にとっても新鮮なテーマだし、単純に楽しんでほしい、楽しくやりたい、そんな感じで取り組みました。「皆を巻き込んでみんな

で作る」というポリシーもうまくいったと思っている。国際交流というのがどういう事を指すのか、その理念、目的や方法論等一切勉強していないし、興味もあまりありません。ただマイノリティーの文化は私の専門でもあるし、消え行く文化も多数目にしており、なんとか守っていきたく日々考えていた。事実アルタイの文化は消えつつあります。若者はアルタイ語をドン臭いと思い、話しませんし全く喋れない子供も多数います。彼らの素晴らしい文化の保護に貢献できれば言うことはありません。

私のアルタイ共和国滞在は三ヶ月とかなり短い期間でしたが最初にしては意味のある、実りある滞在だったと思います。日本語教室やイベントでご協力いただいた皆さんに感謝していただきます。(完)

本当は、日本のマンガアニメ等のサブカルチャーとロックバンド、DJ等の音楽も含め、ロシア人、アルタイ人のコンテンポラリーアーティストともミックスしたアングラをメインにしたかったが、次回に見送りました。この企画を通して知人もかなり増え、今後も継続して続けていけたらと思っています。テレビ、ラジオ等相当数取材を受け、アルタイ日本センター「金」の知名度上昇にも貢献できたのではないのでしょうか。

(<<編注>> 菅野さんは、2010年4月に上海を訪問後、シルクロード沿いにサマルカンド(天山南路)へ旅し、インドに入ったところで一時帰国(病気治療)。再びインドに入り、ウズベキスタンからアルタイに入り、日本語教室を開いていました。西安、ウルムチ、カシュガル、ビシュケク、タシケント、フェルガナ(リシタン)、デリー、ジャイプール、インド・グジャラート州のカッチ(インド西岸)には長期滞在し、各地の工芸事情を視察した。これまでに東南アジアはほとんど回り、特にタイ、ラオスの北部地域には長期滞在した。9月中旬帰国)

当初アルタイで、日本語を教えるだけでなくデザイナーとして現地の素材を使ったコレクションを発表したかったのですが、実現に至らず、アクサナさんと出会ったことで「アルタイと日本の出会い」をテーマとしたイベントを開催することになりました。アクサナさんは、モスクワの人民友好大学でジャーナリズム専攻の大学院生。父がアルタイのNGOの代表を務めるジャーナリス



写真左が、Oksana Kydyeva さん

【予定】 「中津川モンゴルフェスティバル」 11月6日(日)午前10時から 神奈川県愛甲郡愛川町・あいかわ公園
主催：NPOユーラシアンクラブ・愛川サライ 共催：財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団(協議中)、モンゴル・ブフ・クラブ
後援：愛川町観光協会 協力：「中津川モンゴルフェスティバル実行委員会、財団法人繊維産業会ほか
【内容】 モンゴル相撲力士32人の勝ち抜きトーナメントに本国・中国内モンゴルの優勝者力士が参戦。神奈川県内の柔道・格闘技経験者、わんぱく相撲・少年柔道クラブの子どもたちにも体験交流を呼びかける。ドキュメンタリー映像、音楽、講演会、モンゴル料理など多彩な催しを計画中。(別紙参照)

メディア・ユーラシア情報

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。(編集部)

西アジア

トルコ軍がイラク北部のクルド系勢力を攻撃、襲撃への対抗措置

【イスタンブール 18 日 ロイター】トルコ軍は 18 日、イラク北部に拠点を置くクルド系武装勢力に対し航空機や迫撃砲などによる激しい攻撃を行った。トルコからの独立を目指すクルド人労働者党(PKK)による襲撃への対抗措置とみられる。

同日夜、トルコ南東部の空軍基地から少なくとも軍用機 12 機が出撃。軍は詳しい攻撃目標について明かしていないが、参謀本部によると、迫撃砲による攻撃は 168 カ所に上り、さらに軍用機による爆撃も計 60 カ所で行ったと明かした。治安筋によると、標的の中には PKK 司令官の居住施設も含まれていたという。

PKK は 17 日、南東部ハッカリ県でトルコ軍の車列を襲撃。兵士 8 人と民兵 1 人が死亡し、15 人が負傷した。

この事件を受けて、トルコのエルドアン首相は「われわれの忍耐はついに尽きた。テロと距離を置かない者たちはその代償を支払うことになる」と、PKK への報復を行うと表明していた。

<http://jp.reuters.com/article/worldNews/idJPJAPAN-22775920110819> より

政府は 7 月 29 日のエネルギー・環境会議で、エネルギー政策見直しの一環として、原発への依存度を段階的に減らす「減原発」方針を打ち出している。一方で、日本の原発技術を求める海外の関心は高く、見解では新規の輸出案件に関し、事故調の調査や IAEA の基準を踏まえて判断することとした。

原発輸出を巡っては、菅直人首相が 7 月 21 日の参院予算委員会で「私自身も力を入れてきたが、もう一度きちんと議論がなされねばならない」と見直しを示唆した。一方、同じ質疑の中で枝野氏が「従来の約束はしっかり守るのが前提」と答弁し、海江田氏も輸出に積極姿勢を示し、閣内不一致が指摘されていた。

一方、トルコ政府は外交ルートを通じ、原発輸出に関する日本側の姿勢が明確にならなければ、日本の優先的な交渉を打ち切り、他国とも交渉を始める可能性を伝達。日本政府は震災後の原発輸出に関する政府方針の取りまとめを急いでいた。

毎日新聞 2011 年 8 月 5 日 東京朝刊

<http://mainichi.jp/select/seiji/news/20110805ddm001010039000c.html> より

原発輸出：方針変えず トルコなど継続 - 政府見解

政府は 4 日、東京電力福島第 1 原発事故を受け、海外への原発輸出に関する統一見解をまとめた。すでに受注に向けた具体的な交渉が進んでいる案件は、「国際間の信頼関係」を維持するために推進。一方、新規の輸出案件は、政府の原発事故に関する「事故調査・検証委員会」の調査を踏まえ、原発技術の安全性を検証した上で、国際原子力機関(IAEA)の安全基準に沿って判断する。日本の受注が決まっているベトナムや、優先的に交渉を進めているトルコとの交渉を引き続き進める。【田中成之】

統一見解は枝野幸男官房長官、海江田万里経済産業相、松本剛明外相らがまとめた。東日本大震災発生前、政府は原発輸出を新成長戦略の柱と位置づけており、経済界も原発輸出に関する政府方針の策定を要求していた。見解は今後も原発輸出を否定していないことを内外に示す狙いがあり、近く公表する。

「リビアと同じ末路」と警告 = シリアに弾圧中止求める トルコ首相

2011 年 8 月 29 日 [時事通信社]

【エルサレム時事】トルコのエルドアン首相は 28 日、テレビ演説で、反体制デモの弾圧を続けるシリアのアサド大統領に対し、「市民への暴力行為をやめることが必要だ」と訴えた。改革を求める国民の声に耳を傾けなければ、チュニジアやエジプト、リビアの指導者のような末路を迎えると警告した。AFP 通信が伝えた。

トルコのギュル大統領も同日、「われわれの信用を失った」と述べ、アサド政権を厳しく非難した。トルコは近年、シリアと友好関係を築いてきたが、トルコ首脳は繰り返し、アサド大統領に政治改革の実現を求めていた。asahi.com

<http://www.asahi.com/international/jiji/JJT201108290007.html> より

中央アジア

ウズベキスタンで M6.2 の地震、キルギス住民「怖くて長かった」

2011 年 07 月 20 日 ロイター通信

【アルマティ 19 日 ロイター】米地質調査所によると、ウズベキスタン東部フェルガナの南西約 42 キロで 20 日朝、マグニチュード(M)6.2 の地震が発生した。負傷者がいるとの情報は今のところない。

カザフスタンに住むフェルガナ出身の女性は、フェルガナの住民らが強い揺れで目を覚まし、その多くがアパートなどから避難したと話した。近隣の町でも、古い家屋が損壊するなどの被害が出ているという。

今回の地震はウズベキスタン、タジキスタン、キルギスの 3 国に

広がるフェルガナ盆地周辺の山岳地域一帯で、揺れが観測された。ウズベキスタンとの国境付近に住むキルギスの住民は、ロイターの電話取材に応じ、揺れは 15 秒ほど続き「とても怖くて長かった」と話した。

キルギスでは 2008 年、70 人以上が死亡する大地震が発生。ウズベキスタンの首都タシケントでも 1966 年、数十万人が家を失う事態となったマグニチュード 7.5 の地震が起きた。

<http://jp.reuters.com/article/jpEnvNews/idJPJAPAN-22271520110719> より

未成年者のモスク訪問禁止

【モスクワ共同】4日のライター通信などによると、タジキスタンのラフモン大統領は2日、未成年者がモスク(イスラム教礼拝所)やキリスト教会を訪問することを禁じる異例の法律に署名した。イスラム教徒が神聖視するラマダン(断食月)開始直後の法施行に、

地元のイスラム教指導者は「身の毛もよだつ」と憤っている。長期独裁体制を続ける大統領はイスラム過激派の拡大防止には強い措置が必要だと主張している。

<http://jp.reuters.com/article/kyodoMainNews/idJP2011080401000993> より

東アジア

国際クルーズ船の道内寄港、風評被害で6割中止

世界各地を周遊する国際クルーズ船の北海道内への寄港が、東京電力福島第一原発事故による風評被害で、今年予定されていた20回のうち、12回が中止になったことが、北海道開発局の調べでわかった。

小樽市や室蘭市、札幌市など道央圏の関係自治体と道、開発局などは、風評被害を払拭し、国際クルーズ船の寄港を促す検討会を設置、北海道の安全性をPRするなど誘致対策に乗り出す。

同局によると、道内で国際クルーズ船が立ち寄り小樽、室蘭、函館など6港で今年、中国や韓国などアジア地域からサハリン、北米方面を周遊する便が計20回寄港する予定だった。

道内の過去5か年の寄港回数を見ると、2008年には世界同時不況の影響などにより11回にとどまったが、09年以降はいずれも20回あった。しかし、今年是全国でも計416回の寄港予定の36%にあたる149回が中止されており、原発事故が大きく影響している。

(2011年8月16日13時32分 読売新聞)

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20110816-0YT1T00225.htm> より

中国：大連工場移転、異例の早期収拾 住民抗議、政府批判転化恐れ

中国遼寧省大連市で14日、市内の化学工場の移転を若者らが求め、市が即時操業停止と早期移転を決定するという中国では異例の事態収拾策が取られた。経済の急成長に伴って市民の権利意識が高まる一方、浙江省温州市で先月起きた高速鉄道事故のずさんな対応などによって政府への不満がくすぶる。中国当局に、事態の長期化で批判の矛先が政府に向き、収拾がさらに難しくなるという懸念があったのは間違いない。【北京・工藤善】

国営新華社通信などによると、抗議行動は14日午前10時ごろから始まった。若者を中心に人が集まり始め、参加者は約1万2000人に膨れ上がった。

8日に台風が接近し工場近くの防波堤が決壊し、有害物質が漏れ出す恐れが出た。開発区での危険性も地元政府が認識していた可能性があり、住民の怒りを買った。参加者は横断幕を掲げ「工場は出て行け!」「我々は生きたい」と訴え、政府に抗議。市当局は抗議が始まった6時間後に、問題となっていた大連福佳大化石油化工有限公司の移転を約束した。

インターネット上では「大連市民は歴史をつくった」「(こうした工場の存在は)氷山の一角だ」などの書き込みが相次いでいる。

中国では法律で集会やデモ行進は認められているが、当局の許可が必要で厳しく制限されている。住民が行政に異議を唱えること自

体が「要注意人物」とみなされる危険を伴う。しかし今回は市当局も移転の必要性を認識し、既に検討を進めていた事情もあり、当局が抗議を抑えず即日要求を受け入れ、新華社(英語版)も伝えた。

大連市は中国東北部で最大の経済都市で、都市部での環境汚染が進むことで国際的なイメージの失墜が懸念される。また、市民の生活水準が高まるにつれ、より安全を求める傾向が強まっていることも背景にある。

中国では先月23日の温州での高速鉄道事故以降、内陸部の中規模都市など各地で地元行政当局の対応に不満を募らせたことによる抗議行動が頻発している。今回沿岸部の経済都市・大連で起きたことで、当局が危機感を強めた可能性もある。

毎日新聞 2011年8月16日 東京朝刊

<http://mainichi.jp/select/world/news/20110816ddm007030180000c.html> より

「日本海横断航路」第1便が入港

2011年08月19日 asahi.com マイタウン新潟

中国東北部の吉林省と新潟の物流を進めると期待される「日本海横断航路」が開設され、第1便のティディベア号(1500トン)が18日、新潟東港に入港した。多くの日系企業が進出している同省に近いロシア・ザルビノ港と新潟東港を結ぶ航路。これまでのルートに比べて海路が短くなり、輸送日数が大幅に短縮される。

この日、聖籠町の新潟東港であった入船式では、泉田裕彦知事が「ロシアを通ることで、ビジネスチャンスもふくらむ」と語り、中国の程永華(チョンヨンホワ)・駐日大使も「『環日本海経済圏』の発展に努力したい」と述べた。

吉林省にはアパレルや水産加工など多くの日系企業が工場を置く。県港湾振興課によると、新潟に荷物を運ぶのに、吉林省の省都・長春市から約700キロ以上離れた遼寧省の大連港まで陸送した後、船で朝鮮半島の南にある対馬海峡を通って新潟まで運ぶルートが使われることが多く、9日程度かかった。だが大連港より近くにあるザルビノ港に陸路で運んで「日本海横断航路」を使えば海路で大回りする必要がなく、4日程度で済むという。

運航は飯野港運(本社・京都府舞鶴市)が担い、当面は月3便を予定している。県は同社に、大連経由のルートに比べて運賃も安くするよう求めるとともに、荷主に補助金も出す予定だ。(有田憲一)

http://mytown.asahi.com/niiigata/news.php?k_id=16000001108190003 より

金子竜太郎さんがサハ共和国で子どもたちに和太鼓研修

昨年夏、繊維産業会館で合宿し、県立愛川高校で和太鼓部の高校生のお世話になりながら研修を実施、愛川町文化会館でその成果を披露したロシア連邦サハ共和国の子どもたちへの和太鼓指導は、指導者の金子竜太郎氏がサハを訪問して行なわれました。今年 3 月 11 日発生した三陸沖巨大地震に伴う原発事故への不安があることから来日を中止、金子さんが現地を訪れる形で和太鼓研修を継続することになりました。研修は短期間ですが、愛川町での昨年の研修同様毎日朝から夕方まで行なわれ、顔なじみの子どもたちの再会に、金子さんも、子どもたちも昨年の愛川町での滞在を思い出しながらの研修となりました。指導者のハトラエフ夫妻の報告と金子さんのコメントをご紹介します。

成長著しい子どもたち

金子さんはヤクーツクに、7 月 11 日から 18 日まで滞在しました。シベリア中央に位置するサハ（共和国）の今年の夏は大変暑く 43 まで上がった。にもかかわらず金子さんは良く働いてくれました。ヤクーツク市の真ん中にあるレナ・ホテルに宿泊し、研修はチリヤエフ ニコライ コンスタノビッチ校長の協力で午前十時から夕方五時まで、ヤクーツク市国立高校で行なわれた。



朝食はホテルで、昼食は子どもたちの両親が交代で手作りの食事を取り、夕食はレストランでした。金子さんによれば子どもたちの成長は著しく、太鼓のたたき方が力強く、より習熟してきたという。

研修の終了後、子どもたちの親を対象に小さなコンサートを開催し、成果はすばらしく、両親は大変満足の様子でした。子どもたちはどんな場所にもでかけて演奏しています。金子さんどうも

ありがとう。

ゲルマン・ハトラエフ クラウディア・ハトラエフ

相互理解が進んだサハ研修

7 年ぶりのサハ共和国の首都ヤクーツク。建物も少し変化があるようで日本資本のホテルが間もなくオープンすると聞きました。しかし、人は変わりなく、みな素朴で親切。それがなにより嬉しいことです。

去年来日した子供たちは、声変わりが始まっている子もいました。小学校低学年の新メンバーを引っ張っていて一年で逞しくなったものです。歓迎演奏で演奏してくれた去年創作した楽曲も同様に成長していました。今回は 5 日間で 2 曲創作し、最後の日には親御さんたちの前で発表会を開催。親御さんたちの我が子を見守るまなざしに共感し、直接言葉や気持ちのやり取りができ、ますます相互理解が進んだように感じました。

当初彼らが来日する予定が、震災の影響などでこちらが出向くこととなり、期せずして「お互いに行き来する」ことになりました。互いの国の空気を吸いながら、その生活空間で交流することは、心の深い部分での信頼関係を築けるように感じます。今度また子供たちと楽曲の成長を観に行きたいし、日本に彼らの太鼓を響かせてくれる日を楽しみにしています。

金子竜太郎



発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：大野 遼
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343
支部愛川サライ〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314 - 1
TEL/FAX：046-285-4895 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振り込の場合：ゆうちょ銀行 0 一丸店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ サポート会費、ご寄付はこちらへ。会費は年間一口 6,000 円、一口以上のご協力をお願い申し上げます。

<http://eurasianclub.cocolog-nifty.com/>

2011 0901 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：多少現地に目を向けているようなポーズの野田新首相。しかし当の原発と復興の責任者というべき鉢呂経済産業相から「感染」発言。託せない政治家。自分のできることで立ち向かうしかないだろう。8 月 12 日のフェスティバル、8 月 28 日のウイグル文化の発信、そして 10 月 16 日には「アジア SUMO フェスタ」と 11 月 6 日の「中津川モンゴルフェスティバル」。11 月 12 日には、二つの小学校で全校的催しにパンチャラマ兄弟と参加する。橋本岳人山が作曲した「絆」をどう生かすか。9 月中に東日本震災被災地での継続的活動の基盤づくりをしたい。子どもに寄り添った活動。公私ともに真剣に考えたい。引き続き皆様のご支援をお願いしたい(お)